

# 新しい野菜づくりへ

施設野菜組合新組合長の藤田雅一さんにインタビューしました。  
藤田組合長はJ.A雲南で長年にわたり営農指導や市場開拓に携わり、退職後は家業の施設園芸、稲作に従事されています。



藤田雅一さん

## 飯南町の施設園芸の課題は

飯南町は色々な野菜生産に取り組んできましたが、メロン以外に長続きしたものがありません。  
他のメロン産地は、若い後継者が育っています。本町では35年もの間一代で生産を続けています。後継者育成が喫緊の課題だと思います。  
この町の農家はグループを作るのが苦手なようです。集落で2〜3人以上同じ物を生産して、競うことで良いものができます。張り合っつてこそ発展が見込めると思っています。

## 解決策をどう考えますか

今は「米」が厳しくなり、土地集約型農業の法人や認定農家は米だけでやっていける状態ではなくなりました。生産拡大には複合経営が大切です。  
一方で、ハウス団地の計画があり、これが起爆剤になれると思います。  
しかし、補助金で始めた事業は長続きしたためしがありません。これまで、凌ぎあつたものしか生き残っていません。  
飯南町の産物は売り場を確保することが大切、一年中そこへ行けば必ず何かがあるという場所を確保しなければなりません。冬は葉物野菜などです。

いから売り場を維持する必要があります。

## 目指すところを教えてください

メロンやトマト、パプリカなどを自分で売ることが大切です。生産者がお客さんと対面で野菜を売り、消費者が自分の野菜をどう見ていくかわかる機会が必要です。  
百点の野菜でなくてもいいけれど、底が高くなければ生き残れません。品質の安定した野菜を生産し、産地を目指したいと思っています。



深耕して土質改善しています。



## 今月の表紙写真



上赤名の谷川さん宅ではこの日、家族総出で水稻の苗づくりに精を出していました。ハウスの中では種に覆土を施し、道を挟んだ向いのハウスに運んで育苗します。約7反を耕す兼業農家ですが、昔ながらの手順で育苗作業に取り組んでおられます。農地を守る農業から利益を上げる農業への転換、さらには6次産業化へと舵取りを急がされる環境ですが、そんなことは分かった上で農家はコツコツと、それでも農地を守っていらいます。

## 編集後記

平成27年3月議会は5人が一般質問に立ち、3人が地方創生に関する質問をしました。

本号も地方創生を特集記事にしていますが、近隣の市や町村の取り組みに追随するのではなく、独創的で実効性のある取り組みに挑戦しなければなりません。

町執行部や議会の姿勢が本町の行方を大きく左右します。たとえ派手なものでもなくとも、確実に定住につながる政策が求められています。

先般の全国町村議会報コンテストにおいて、飯南町議会報35号が奨励賞を受賞しました。

ひとえにご愛読くださっている皆様のご指導のお蔭と感謝いたしております。これを励みにさらに分かりやすい紙面づくりに努力してまいります。皆様のご意見をお寄せください。

議会広報編集委員会 門 眞一郎